

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2792700110		
法人名	医療法人小池外科		
事業所名	グループホーム大正鶴町		
所在地	大阪市大正区鶴町1丁目18-1		
自己評価作成日	平成 28年 6月 10日	評価結果市町村受理日	平成 28年 8月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=2792700110-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 7月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中に、その人らしい生活をしてもらう為には、どのような支援が必要なのかを考え、一人ひとりの希望・思いに添った介護計画を取り入れ、その人らしい生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するグループホームです。「私たちはいつも心がけています『笑顔がいつぱいのホーム』『主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム』『地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます』を、法人・事業所共通の理念として掲げ、スタッフが家族として、一緒に暮らす第2の我が家を目指しています。利用者本人の生活リズムに合わせ、楽しく・気分よく暮らしてもらうケアを大切にしています。管理者は、同法人の介護老人保健施設での経験を活かし、「利用者一人ひとりの希望を実現する支援ができる」グループホームでの仕事の醍醐味を、毎日の仕事の原動力にしています。開設2年目の現在、外部評価受審をサービスの改善・向上の機会にしていこうとする、法人本部や管理者の前向きな姿勢から、今後に期待できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を1階とタイムカードの上に掲げ、出勤時に見るようにしています。	「私たちはいつも心がけています『笑顔がいっぱいのホーム』『主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム』『地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます』を、法人・事業所共通の理念として掲げています。理念は、玄関に掲示し、家族にも理解してもらっています。また、タイムカード上に掲げ、職員も確認するようにしています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を行い交流を持てるよう努力していきます。	地域との交流・連携は、現在無い状況です。今後、運営推進会議の開催を機会に、地域との交流を図っていく予定です。 散歩で出会う地域住民との馴染みの関係づくりも大切にしていこうと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、地域の行事等に施設を利用して頂くように提案させて頂いたり地域貢献出来るように努力して来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	出来ませんが、日程を調整しています。	運営推進会議は開催できていない状況です。管理者は地域包括支援センターや地域の関係者と相談し、できるかぎり早く開催する予定です。地域の代表、家族にも参加を依頼し、運営推進会議での意見や情報を事業所の運営に活かし、地域との連携を進め、地域に役立つ事業所になることを目指したい意向です。	<p>運営推進会議は、開催規程を定め、およそ2カ月に1回、年6回の開催が求められます。</p> <p>運営推進会議で事業所の状況、取り組みの内容や課題が話し合われ、地域の理解と支援を得るための貴重な機会になり、地域との交流、連携が進むことを期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	区の担当者とは相談や情報交換を実施してサービスの向上に取り組んでいます。	<p>管理者は月に2～3回、区役所を訪問し、事業所の状況を報告して相談や情報交換をしています。事故報告もしています。管理者は運営推進会議の開催のため、地域包括支援センターにも相談し、協力を得ていく予定です。</p> <p>ケースワーカーやあんしんさぽーと事業(日常生活自立支援事業)担当者との連携も図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>1年に2回の身体拘束研修を開催しています。</p>	<p>管理者は介護老人保健施設に勤務の経験があり、身体拘束をしないケアの大切さを理解しています。運営規程、重要事項説明書には事業所の考えを明記しています。マニュアルを整備し、職員に配布しています。今年度は2回の職員研修を計画しています。玄関やエレベーター、各ユニットの入口は施錠されている状況です。</p>	<p>身体拘束をないケアを実践するために定期的な職員研修を実施する一方、日々の申し送り時等に、言葉遣いも含め、その日のケアを振り返り、職員同志点検し合うことなどの取り組みを検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>利用者の自由な暮らしを支援するため、できる限り鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていくことが求められます。まずはユニット入口の開錠から、職員間で検討されてはいかがでしょうか。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員のストレスにも配慮し、心に余裕を持ち利用者と接する事が出来るように配慮し防止に努めています。</p> <p>年2回虐待防止の研修を開催しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中に成年後見制度や安心サポートを活用している方がいるので機会があることに話し合っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に入居に際しての説明は充分行っている。利用者や家族の疑問点は契約前、契約時に話し合い理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とは面会だけではなく介護計画作成時にも話し合い家族の希望、不満を表せるように対応しています。しよ</p>	<p>管理者は家族の信頼を得て、家族から忌憚のない意見や要望を聞き、事業所の運営に活かしていきたいと考えています。家族の意見や要望は面会時に聞くだけではなく、家族に介護計画書を送付する際、意見や要望を記入するための用紙を同封する等工夫をしています。現在、意見や要望は少ない状況です。 利用者からは、食べたい物について要望を聞き、献立に活かしています。</p>	<p>家族の信頼をより確かなものにしていくため、利用者毎に簡単な手紙や事業所便り等、利用者の暮らしぶりを定期的に家族に発信することを検討されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度職員の意見、提案を聞きサ一ビスに反映させています。	管理者は職員の意見・要望を聞き運営に活かしていきたい考えですが、職員の勤務の都合により職員会議を開催して意見や要望等を聞く機会が無い状況にあります。そのため管理者宛のノートを設け、職員から日常的な連絡や提言等を受けようとしています。職員の提案によりバイタル、入浴等のチェック表が改善された事例があります。管理者は、今後早い時期に定期的なフロア会議、全体職員会議等を開催し、職員と話し合いの機会を持てるようにしたい考えです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう、スキルアップの為に長期休暇にも対応し、向上心を持って働けるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の機会を多くのテーマについて研修をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にあるグループホームの交流を行っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動、行動をよく把握する事にて重点を置きながら、不安な事、要望等を聞きコミュニケーションを大切に安心感を持って頂けるよう声かけ、サービスを行い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には定期的に連絡をして生活状況をお知らせして不安な事を相談出来る関係作りを築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴など家族から話を聞き本人が生活していく上で何を必要としているか優先すべきサービスを見極め対応していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に楽しみ、共に悩み一緒に生活を作っていけるようなケアに努め本人の個性がホームでも活かせるように支援していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員間で利用者の情報交換を大切に、本人が安心して生活を出来るよう共に支援していける関係を築けるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡、友人の来訪などの継続、利用者の声を聴き馴染の店等に行く事で知人との関係が途切れないように支援に努めています。	馴染みの友人が訪問しています。入居前の馴染みのスーパーに買い物に行くなど、職員は利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフを交えてのレクリエーション、散歩、買い物など一緒に過ごす時間を大事にし、その中から生まれる信頼関係を大切にしていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近くに来られ際はぜひお寄り下さい等の言葉を必ず伝え訪問しやすいよう配慮しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動を細かく観察し、本人の気持ちになって今その人が何を望んでいるか、どのような支援が必要なのかを話し合い検討しています。	利用者一人ひとりと日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、利用者の気持ちを察してケアに活かしています。他のグループホームで生活する姉に会いたいと希望する利用者の願いを実現させました。	利用者一人ひとりの思い・趣味・好み等の情報が職員間で共有できるシートを作成し、利用者の理解を深め、その人らしい支援に活かせるようにしてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入所するまでの生活歴は家族、支援者に聞き、利用者が今まで、築き上げた生活、自分らしく暮らしていけるよう支援していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者が安心して生活していけるよう職員間で意見交換し現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活を観察し新しい得た情報、思いなどを介護計画に取り入れ、カンファレンスには利用者にも同席して頂き、その人らしい介護計画作成に取り組んでいます。</p>	<p>利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画を作成しています。介護計画は、3か月毎にモニタリングを行い更新しています。ケアプラン実施記録に介護計画のケア内容が記入され、職員全員が統一したケアが提供できるようになっています。</p> <p>計画作成担当者は、「利用者本人の希望に沿うことを大前提とした介護計画作成」を心がけています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者別の生活記録、排泄、水分、バイタル等体調記録を充実させています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>母体病院の医師と職員として配置されている看護師から医療と看護を受けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒にお買い物に外出等しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、母体病院の医師による往診を受けています。	母体法人の病院から月2回医師の往診があり、利用者の健康管理を行っています。入居前からかかりつけの医療機関を受診している利用者には、職員が同行の上、継続して受診できるよう支援をしています。法人職員である看護師は週1回利用者全員の健康管理に訪れ、歯科は週1回の往診があります。母体病院は24時間の緊急対応が可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の職員として配置されている看護師を通じ週1回医療連携をとっています。月2回の往診の際に個々の利用者の体調や様子を伝え、適切な受診を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体病院からの情報提供以外に日々の生活歴等を外来受診の際に出来るだけ伝えていきます。また、入院したさいは既往歴や現在治療中の病気、生活歴を詳しい伝え早期に退院出来るように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族には看取りの実践の方針を説明し同意書を取っています。	重度化した場合における(看取り)指針を作成して、契約時に家族と利用者に説明しています。入居後、利用者が重度化した場合は、改めて家族、医師、看護師を交えて話し合い、家族と同意書を交わしています。今までにホームでの看取りはない状況です。管理者は今後利用者が重度化した場合、家族・利用者の要望に応えられるよう研修を行いながら、チームで支援に取り組みたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で緊急時の対応、応急手当、初期対応の研修、訓練をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、非常、災害時の食料と水の備蓄をしています。	災害発生時のマニュアルを作成して研修を行っています。災害発生時の非常食品や飲料水は準備しています。非常出口の鍵は非常時に中央にて一括開錠でき、利用者は早く避難することが可能です。しかし、定期的な避難訓練の実施については、消防署の協力を得て行った1回のみで、自主訓練はできていない状況です。管理者は早急に利用者も参加する自主避難訓練を実施したいと考えています。	年2回以上の避難訓練が求められていますが、消防署の協力を得て行う避難訓練1回以外に自主訓練は行われていない状況です。利用者の安全確保のため年2回以上の避難訓練の実施が求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は失礼のないよう明るく親しみやすい雰囲気です。	プライバシー保護の研修を行っています。職員は日々の関わりの中で利用者と親しく対応していますが、時々親しさと馴れ馴れしさとの言葉遣いの違いに気づかない場合があります。管理者は職員間でよく話し合い、誇りやプライバシーを大切に丁寧な言葉遣いや接し方について研修を重ねる予定です。	利用者一人ひとりに対し敬意をもって、尊厳に配慮した言葉かけと対応が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーション、信頼関係を築き、話やすい環境をつくり、利用者の思い、希望を聞き自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護していく中で何が大事で何を優先するのか、職員が理解し、利用者にはその人のリズムで安心、安全に過ごして頂けるよう心がけて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪、入浴時は利用者と服装を選び自己決定できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を取り入れ、ホームで調理しています。利用者の好き嫌いにも注意し食べる楽しみ、一緒に食材に触れて切ったり共に作る事で、目で見る楽しみ、食欲が促せるように工夫しています。	調理は3食ホーム内で職員が手づくりしています。食材は主に職員が購入し、冷凍食品のみ業者より定期的に購入しています。メニューは日々利用者と話し合いながら決めていますが、日曜日のみ「お楽しみ」と名付けて前もって決めていません。誕生会、お花見、敬老の日、クリスマスには寿司の出前を取り寄せ利用者に喜ばれています。餃子パーティーも利用者には人気があります。ホットケーキやたこ焼き等、利用者全員で楽しく作ることもあります。利用者は、各々自分のできる範囲内で野菜の皮むきや洗い物等を職員と共に行い、食事づくりに参加しています。家族と外食を楽しむ利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者に対し、食事量、水分量を確認し記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1回の歯科往診を参考に個々の状態に応じ、毎食後の口腔ケア、夕食後の義歯洗浄を徹底しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。また能力に応じて排泄の自立に向けた支援をしています。	トイレでの排泄を基本としています。誘導が必要な利用者には、一人ひとり排泄状況を把握して、随時声かけをして誘導しています。 オムツ使用の状態ですべて退院した利用者が、トイレでの排泄が可能になったケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体病院と連携し毎日の排泄お記録をし排泄の把握に努め、便秘の予防をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴出来るように入浴時間など決めず、ゆとりある入浴を心がけています。	基本は週3回の入浴です。希望があれば、毎日入浴も可能です。 入浴を強く拒む利用者については、家族の協力を得て入浴してもらっているケースもあります。好みのシャンプーを使って、より入浴を楽しんでいる利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	利用者の生活リズム、体調面も 考え自由な休息、安心して眠れ るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	母体病院と医療連携を取って おり、薬の目的や副作用、用法 や用量について指導を受けてい ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている	一人ひとりのコミュニケーション 、レクリエーションで笑顔ある 時間を大切に天気の良い時は 散歩したり、買い物に行ったり 必要に応じた支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるよう支援している	レクリエーションでおやつ作り などを取り入れ、支援をしてい ます。	お菓子の買い物や散歩等、外 出の機会を積極的に作るように しています。居室に仏壇のある 利用者は、お供え物を買いに 外出しています。また、玄関 前の野菜や花の水やりは外気 浴を兼ね、天候や季節を感じる 機会となっています。花見や 初詣の機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行く際は利用者と同行し利用者が精算するように支援をしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族と電話をしたい希望があれば、いつでも電話出来るようにしています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>植木や花などを利用者と一緒に植えたり、水やりをしたり楽しんでます。ホーム内もピンク色を基調として落ち着いた雰囲気になっています。</p>	<p>ホーム内は、ピンク色を基調として、食堂を兼ねたリビングも、明るく穏やかな雰囲気です。壁には、季節を感じる壁飾り、行事の写真などが貼られ、居心地よく過ごせるよう工夫しています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。</p> <p>手すりを消毒液で拭いて感染症予防に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を決める事なく自由に座れるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームが提供しているベット等以外に利用者が持ち込んだ整理ダンス、仏壇等あり安心して過ごせる落ち着いた部屋となっています。	居室は利用者が使い慣れた家具や仏壇、大切な家族の写真などが置かれて落ち着いた雰囲気です。また、利用者が若い頃、活躍していた当時の写真が飾られていたり、お気に入りのぬいぐるみを部屋中に飾って楽しんでいる利用者もいます。その人らしい居心地よく過ごせる居室づくりに工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり得意分野があり、それらを活かせるように一緒に行くことで次のステップが踏めるように支援しています。		